

第6830号

内外教育

ラウンジ 新型コロナウイルス危機後の教育

○：重い病気になった時は、自分にとって何が重要なことなのかに思いを巡らす。そのような時こそ、本当に大切なものに気が付く。しかし、病気が治り死の恐怖が去ると、危機的状況の時に考えたことは忘れ、元の便利や功利を求める生活に戻ってしまう。

○：今、新型コロナウイルスの世界的流行で、私たちの日常生活は一変し、重い病気にかかったような状態にある。そのような時こそ、何が大切なのか、何が重要なかを考えたい。

○：新型コロナウイルスの感染拡大は、社会の諸分野に影響を及ぼしている。教育の世界への影響も大きい。とりわけ、長期にわたり学校が休校になったことは、学校中心の生活を送っていた子どもたちの生活を一変させた。その影響は計り知れない。休校になり、授業、遊び時間、部活動、交友関係も無くなり、子どもたちの学習や楽しみが奪われた。そして、学びの社会的格差が拡大している。これまで学校が担ってきた教育機能の重要性が、平等性も含めて改めて認識される。コロナ後は、この間に滞った教育機能の補修、回復や格差の是正が、まず早急になされなければならない。

○：一方で、自明であった学校教育の意義も問われている。効率優先の一斉授業、生きる

力にならない知識、教師のクラスメートへの叱責を聞く時間、退屈な学校行事、無意味な校則など、無くなってみるとスッキリすることが多い。これまでの学校教育の在り方の見直しが必要である。

○：休校中の家庭での自由な学習、親子関係の親密化、ウェブ学習、地域での遊びの回復など、これまでの学校教育とは違った自由な学習や生活に、本来の興味や活動に目覚めた子どもたちも多いことであろう。不登校やホームスクーリングも見直されてよい。

○：黒板とチョークを使つての学校での授業に替わり、家庭での遠隔学習を経験した子どもも多い。デジタルネイティブの今の子どもにとって、デジタルで学ぶことの楽しさは増している。コロナ危機後の教育では、デジタル学習が家庭でも学校でも盛んになることは必然である。しかし、教育のデジタル化には多くの課題がある。子どもの集中力や深い学びには、ウェブ学習より伝統的な教育（紙と黒板）が適格的という報告もある（デジタル先進県の全国学力・学習状況調査の得点は高くないことなど）。

○：コロナ危機は、経済や政治の分野で大きな変化をもたらし、教育にも跳ね返る。経済的な不況による教育費の削減、危機管理を名目にした超管理社会の到来など。これからは、教育力の維持、教育的格差の是正、民主主義の維持などがなされなければならない。（Q）

「迷惑施設」としての学校

近隣トラブル解決の処方箋

小野田正利 著

●四六判・208頁●本体価格1400円税別

飛び交う理不尽 クレーム

音楽鳴らすな
マイク使うな

近隣トラブルに悩む学校、幼稚園、保育園が近年増加。「要望」↓「苦情」↓「無理難題」にどう対処するか。

近隣トラブル解決の処方箋

小野田正利 著

TEL 03-5565-2155

<https://bookpub.jiji.com/>